

国際社会・地域社会とともに



国際社会・地域社会とともに

富士通グループは、FUJITSU Wayの企業指針に掲げた「社会に貢献し、地球環境を守ります」に基づき、社会の一員として、企業活動を通じて豊かな社会づくりを担っていきます。

具体的には、文化・芸術活動、企業スポーツの振興、将来を担う青少年の育成、国際交流の支援、地域活動などの社会貢献活動を通じ、世界各地において地域に根ざした企業として地域社会との共生を図ります。

社会貢献活動の考え方

富士通グループでは、良き社会人として地域や社会と調和することを重要な行動指針とし、お客様、株主、社員、お取引先、国際社会・地域社会、公共機関、行政などすべてのステークホルダーの利益に配慮しながら成長する「サステナビリティ(社会の持続可能性)への責任」を果たしていくこと

をめざしています。

その一環として、富士通グループでは、将来を担う青少年の育成とさまざまな分野における活躍の場の提供に努めるほか、国際社会・地域社会との積極的なコミュニケーション活動、さらには環境保全活動(P50参照)などの社会貢献活動を推進しています。

WEB 社会貢献活動
<http://jp.fujitsu.com/about/csr/community/>

2007年度の社会貢献活動ハイライト

JAIMS(日米経営科学研究所)の運営

JAIMS(Japan-America Institute of Management Science)は、1972年に富士通が全面的にバックアップして設立された大学院レベルの教育を行う非営利の教育研究法人です。「日米間のビジネスウェイトが増大する将来に備えて、日米の架け橋になる国際ビジネスマンを養成したい」

2007年度の社会貢献活動の実績一覧

学術・教育の振興／国際交流

- JAIMS(日米経営科学研究所)の運営
- (財)情報処理教育研修助成財団(FINIPED)の運営
- 数学オリンピック財団／NPO法人情報オリンピック日本委員会への活動支援
- 富士通奨学金制度
- 富士通キッズサイト

文化・芸術活動

- 富士通コンサートシリーズへの協賛
- 富士通コンコード・ジャズ・フェスティバルへの協賛
- 第15回富士通杯「達人戦」の開催(将棋界唯一のシニア戦)
- 第20回世界囲碁選手権・富士通杯の開催
- 富士通レディースゴルフトーナメントへの協賛
- 川崎フロンターレの活動を支援 など

企業スポーツ

- 陸上競技
- アメリカンフットボール
- 女子バスケットボール

地域活動

- 川崎工場 春まつり
- 沼津工場 茶摘みフェスティバル
- 富士通ソリューションスクエアくすのき祭 など

災害支援

- 新潟県中越沖地震の被災地支援(2007年7月)
- 富山県高波発生の被災地支援(2008年2月)
- ミャンマー サイクロンの被災地支援(2008年5月)
- 中国四川省地震の被災地支援(2008年5月)



川崎フロンターレサッカー教室



小学生ふれあいスポーツ教室



川崎工場春祭り



富士通ソリューションスクエアくすのき祭

という当時の社長、高羅芳光の構想をもとに設立されました。現在は、「ビジネスリーダーの育成を通じて、アジア太平洋地域の人材開発と経済発展に貢献する」ことをミッションとして活動しています。

富士通ではJAIMS設立以来、運営資金の拠出に加え、その活動を支援する組織を社内に設置し、JAIMS日本支所として留学生斡旋のための宣伝広告、セミナー企画、外国人研修生の受け入れなどのサポートを続け、学術・教育の振興、国際交流を通じた社会貢献を推進しています。

JAIMSへは、留学プログラムの卒業生約3,000名、海外セミナー参加者約19,000名など、これまで54ヶ国から延べ22,000名以上の方が参加してきました。参加者はJAIMSで学んだ異文化コミュニケーションスキルやマネジメント知識、グローバルな人的ネットワークを活用し、世界各国で



JAIMS玄関

WEB JAIMS (日米経営科学研究所)
<http://www.jaims.jp/>

活躍しています。

2006年には、30年以上に渡って国際交流の促進へ寄与してきたことなどが評価され、平成18年度外務大臣表彰を受賞しました。

富士通奨学金制度の運営

1985年、富士通は創立50周年を記念して、日本の文化・社会・経営手法を深く理解し、将来に渡って日本と世界をつなぐビジネスエリートを育成する目的で、「富士通奨学金制度」を創設しました。当初はJAIMSで日本経営を学ぶ参加者への奨学金制度として始まりましたが、1996年からはそれ以外のアカデミックプログラムへも適用範囲を拡大し、



奨学生卒業式

アジア太平洋地域のビジネスパーソンに、JAIMSの異文化マネジメントプログラムで学ぶ機会を提供しています。現在では対象を18ヶ国にまで広げ、累

計受給者は331名に上ります。

毎年多数の応募がありますが、英語力、学業成績、業務経験などに加え、自国の発展に寄与したいという意志などを踏まえて、奨学生を選定しています。富士通奨学金制度は、アジア太平洋諸国で事業展開している富士通グループと連携し、国際地域社会に根付いた教育を通じた社会貢献活動として、アジア太平洋地域のビジネスリーダーの育成、文化交流や相互理解の促進に貢献しています。

WEB Fujitsu Scholarship (英文サイトのみ)
<http://www.fujitsu.com/scholarship/>

「数学オリンピック」「情報オリンピック」の支援

富士通は、(財)数学オリンピック財団および特定非営利活動法人 情報オリンピック日本委員会の活動を支援し、将来の社会の発展を担う貴重な人材の発掘・育成に寄与しています。

数学オリンピック財団は国際数学オリンピック(IMO)への日本代表選手の選抜、派遣に関する事業を通じて数学的英才を発掘し、その一層の伸長を図るとともに、数学教育の国際的視野での改善、発展に貢献することを目的として1991年に設立されました。富士通は、設立にあたって、他2社・1個人とともに基本財産を出捐し、また、IMOへの日本代表選手の選抜大会である日本数学オリンピック(JMO)や日本ジュニア数学オリンピック(JJMO)における成績優秀者への副賞提供などの支援を行っています。

また、情報オリンピック日本委員会は、日本の数理工学分野を支える人材養成に寄与することを目的として2005年に設立され、中高生を対象としたプログラミングコンテストである国際情報オリンピック(IOI)への参加および協力事業を展開しています。

富士通は賛助会員としてその運営を支援するとともに、



第7回 日本情報オリンピック表彰式

IOIへの日本代表選手の選抜大会である日本情報オリンピック(JOI)における成績優秀者に副賞を提供しています。

地域社会貢献活動

富士通グループは、環境マネジメントシステム(EMS)のサイト活動として、全国の支社・支店、工場など事業所における地域社会貢献活動を推進しています。2007年度は、清掃活動を中心に約770件の活動を行い地域社会との連携強化に努めました。

たとえば、川崎工場では、地域社会に貢献するさまざまなボランティア活動を行っています。具体的には、工場周辺の清掃活動をはじめ、春と秋には工場外柵沿いの花壇へ植栽を行っています。また、近隣のプールに生息するヤゴを救出し、工場内の大池に放つ「Yagoレスキュー大作戦」は、近隣の小学生と共同で行う毎年恒例のイベントとなっており、地域社会との交流にもつながっています。



植栽の様子

こうした活動は、昼休みの時間を利用して行われており、回を重ねるごとに社員参加者数が増加しています。2007年度は延べ1,000名以上の社員が参加しました。

自然環境保全活動

森林は、渇水や洪水などの自然災害を緩和する役割を果たすほか、野生の動植物の生息・生育の場にもなっています。また森林は、地球温暖化の原因となるCO₂を吸収する効果があります。

富士通グループでは、自然環境保護活動の一環として森林保全活動に取り組んでいます。

たとえば、富士通那須工場では、栃木県が推進する「協働水源の森づくり推進事業」の取り組みに、「富士通那須工場自然の森再生活動」と銘打ち、総勢50名の社員が参加し、コナラ、クヌギ、ヤマザクラなど150本の苗木を植栽しました。



自然の森再生活動に参加した社員ボランティア

また、富士通中部システムズでは、2004年の台風21号で土砂崩

れなどの被害を受けた大台町(旧宮川村)における植林活動を大台町、宮川森林組合と共同で実施しました。この活動には社員とその家族117名が参加し、34種282本の植樹を行いました。

「富士通キッズプロジェクト:夢をかたちに」

子どもの“理数離れ”が叫ばれているなか、富士通グループでは、「次世代の人材育成は企業の使命である」という考えから“ものづくりの楽しさ、技術のすばらしさ”を次世代に伝える取り組みとして、2007年に「富士通キッズプロジェクト」をスタートしました。

富士通グループでは、このプロジェクトが全国へと拡がり、そして未来へとつながっていく活動となるよう、ウェブサイトの一つの基軸メディアとして位置づけ、プロジェクトを推進しています。具体的には、専用ウェブサイト「富士通キッズ:夢をかたちに」を設け、そのなかで、ものづくりの楽しさや環境保全活動、ユニバーサルデザイン、さらにはパソコンの仕組みについてなど、学校の授業内容と連動した学習用コンテンツを準備し、子どもたちが楽しく学べるような工夫を施しています。

また、このプロジェクトでは、ウェブサイトを通じた情報発信のみならず、実際の活動を通して、ものづくりの楽しさを生で伝えるイベントも実施しています。

2007年の夏には、「ものづくり」と「技術のすばらしさを伝えたい」をコンセプトとして、親子で一緒に楽しめるイベント「富士通キッズイベント2007」を開催。近隣地域の小学生、全国の小学生から参加者を募り、富士通キッズサイトとの連動を図りながら、環境教育、技術展示室見学、未来の夢をかたちにするワークショップなどのプログラムを実施しました。

また、ものづくりの楽しさを伝える良質なコンテンツの



「富士通キッズ:夢をかたちに」ウェブサイト

普及と子ども向けユニバーサルデザインの発展を目的に、「富士通キッズサイト」の構築で得た当社の実践ノウハウをまとめた「富士通キッズコンテンツ作成ハンドブック」を2007年12月より、一般公開しています。公開から5ヶ月近くで、約10,000件のダウンロードがあり、良質なコンテンツづくりをめざす多くの方々に活用いただいています。

そして、ものづくりの喜び、楽しさを伝えるこうした取り組みが評価され、富士通キッズプロジェクトは、NTTレゾナント(株)主催「環境goo大賞2007 キッズ部門」優秀賞および(財)消費者教育支援センター主催「第6回 消費者教育教材資料表彰」優秀賞を受賞しました。



「環境goo大賞2007 キッズ部門」優秀賞 表彰式

WEB 富士通キッズ:夢をかたちに
<http://jp.fujitsu.com/about/kids/>

公共政策に関する活動

企業活動や一般社会生活のなかで、ITが広く活用されることに伴い、ITに関する新たな法規制や社会的ルールの策定、さらに、ITをより正しく、より快適に利用するための新たな枠組みの構築が求められています。

こうしたなか富士通では、さまざまな分野において、政策提案などの制度改革に関する対外的な働きかけを行い、また産業界のグローバルな対話を進め、より豊かで夢のある社会づくりに貢献しています。

情報セキュリティ政策策定の検討・立案に参画

少子高齢社会の進展や経済・社会のさらなるグローバル化が進展するなか、日本が抱える課題として、「安全・安心な社会の構築」や「生産性の向上による経済成長の実現」などがあげられています。こうしたなか、富士通はIT企業として、政府の政策策定の場に参画しています。

たとえば、近年、政府および金融、通信、医療といった重

要社会基盤産業における情報システム障害や、個人情報の漏えいなど、情報にまつわる問題が顕在化しています。こうしたなか官民が適切な役割分担のもとで連携し、情報セキュリティ問題に対して適切な対応を取るために、政府は「情報セキュリティ政策会議」を設置しています。富士通は、同会議に民間有識者委員として、役員が参加し、政府機関や重要インフラのセキュリティに関するガイドラインの策定など、情報セキュリティ政策の検討・立案に参加しています。

産業界のグローバルな対話

地球環境問題の解決・改善が求められるなかで「ITが果たすべき役割」について、政府のみならず民間が主導する国際的な協調や対話が求められています。こうしたなか富士通は、IT企業として果たすべき責任を考え、積極的に活動しています。

たとえば、2008年4月には、当社役員が世界議長を務める「世界情報基盤委員会 (GIIC※1)」が、東京で開催されました。「Power of Green—ICT※2は環境にとって善か悪か?」と題する年次総会を開催し、世界の民間・政府・学界のトップが環境問題や将来のIT社会のあり方について議論を行い、東京宣言をまとめました。

このほかにも富士通は、国内外のさまざまなフォーラムなどに参画し、より良い社会のあり方を情報発信・提案しています。



世界情報基盤委員会 (GIIC)

※1 GIIC Global Information Infrastructure Commissionの略

※2 ICT Information Communication Technologyの略